

平成29年度 和光市立白子小学校 第3回学校運営協議会 議事録

平成29年7月10日（月）
午前10時～午前11時20分
和光市立白子小学校 PTA 会議室

出席者 鳥飼 昭男委員、富澤 昭憲委員、牧 江利子委員、榎本 克実委員、金井 良浩委員
富澤 隆司委員、中村 哲委員
西 貴美雄、坪谷 孝雄 （9名）

1 開会のことば（教頭 坪谷 孝雄）

2 学校長あいさつ（校長 西 貴美雄）

3 報告

- (1) 第1学期の学校運営状況について
- (2) 第2学期の学校運営計画について

4 協 議 （進行…会長）

(1) 前期児童アンケート調査結果について

校長より今年度6月に実施した児童アンケート調査結果について説明し、委員よりご意見をいただく。校長からは、「子ども達の学校生活の全体像を把握するための資料である。」「達成率87.5をひとつの目安としている。」「まったく当てはまらないと回答した児童への対応を重視している。」「1, 2, 3, 7, 8, 10は今回がいちばん良い数字がでてきている。」と説明があった。

◇回収率は何パーセントと考えてよいのか。

⇒全員の子どもから回収しており、100%である。

◇子ども達への調査は家に持ち帰らせているのか。

⇒担任がアンケート用紙を配布し、その場で回答させ、回収している。

◇アンケートは記名式なのか。

⇒記名はしていない。

◇今までは学校サイドから地域の方に情報が流れてきている。学校と地域と一緒にやれることを考えた。例えば、学校が地域に貢献できることは何か、下校時の安全をどう確保するか、携帯電話の問題をそうするのか等これから考えたい。今までは、一方的に学校から地域に話がされてきた。逆に今度は地域から学校運営をどのようにしていったらよいかという話をしていかななくてはいけないだろう。いつごろからなるのだろう。

⇒今のお話は別の機会にお願いしたい。

◇今のところは、学校内部の教育目標への達成度合いが話し合いの主できている。今後、地域がどういふところを補佐するかという話し合いになっていくのだろう。

◇アンケート結果に戻りたい。記名式にすると、高学年の女子等はよい方につけてしまうことがあると聞き及ぶ。

◇A と B をたすと 90%以上になっている。「授業は楽しくわかりやすい」という項目では、60%程度の子ども達が「よくあてはまる」と回答している。このあたりが伸びてくると大変嬉しいことだ。更に学校の取組を期待したい。子ども達ひとり一人に目を配ってもらえるとありがたい。

◇アンケートでいちばん気になったのは、「いじめ・悪口はない」「先生に相談できる」「給食は残さないで食べている」という項目である。結果を踏まえてどのように対応するのが学校の課題であろう。アンケート結果は公表するのか。また、反応については把握すべきではないか。

⇒2学期当初に公表を予定している。3項目については学校でも注視している。特に、「いじめ・悪口はない」は過去アンケートと比較するとよい数値とはいえない。いじめについては、学期に1回なかよしアンケートを実施して対応している。子ども達が何をいじめや悪口として捉えるかは刻々と変化している。その時々で担任を中心として、時には組織としての対応を進めている。数値については、学校の対応を理解していただいた上で、見ていただきたい。

◇いじめは見逃さないことが大事なことである。担任は、常に目を光らせ、アンテナを高くして、子どもを見ていく姿勢を大事にしていきたい。

⇒子どもがいじめや悪口を訴えられる機会として捉えている。この数字が学校の現実をあらわしているものとは思っていない。この数字よりもっといじめや悪口は多いかもしれない。学校が日々対応していることをご理解いただきたい。見方によっては、「こんなにいじめがあるのか」と思う方もいらっしゃるかもしれない。学校の現実を理解していただき、その取組みを支援していただきたい。

7については、課題であるが、やや数値は上昇している。子ども達の回答を見て、担任がどのように指導法を変えていけばよいのかを考えるきっかけとしている。学校の施設を活用して教育相談的機能も高めていきたい。9については、5月までは1年生の食がたいへん細かった。影響があると思われる。

◇低学年は家庭の料理で育ってきている。給食について回答が思わしくないのはバリエーションに富んだ献立が子ども達の口にすぐに合わないのかもしれない。

◇献立によっても違うと聞いている。前の日の献立が頭の中に残っていれば、「残す」と答えるかもしれない。

◇食育という意味では理解できるが、アンケート項目に入れたことがおかしいのではないか。

◇好きなものを弁当にいれてもらっていた園児時代とは違う。「食わず嫌い」も結構あるのではないか。

◇「先生に相談できる」の項目は、担任、養護教諭、教育相談員などの職種に分けて回答を求めているのか。

⇒担任が配布するアンケートであるので、ほとんどの子どもは担任を思い浮かべていると考えられる。

◇データとしては、担任により相違があることが分かっているということになる。

◇びっくりするほど高い数値が並んでいる。自分が子どもだった時を考えると感覚的には60~70のところだ。一般の日本の小学校との比較という面ではどのような位置にいるのだろうか。

⇒資料が少なく、他校との比較は難しい。資料として、変化を追っていくことは大切にしたい。

◇「進んで運動している」について「まったくあてはまらない」と回答している子どもがいるが教室に残っている子どもなのか、今まで人数が多かったのでやむを得ず運動する機会に恵まれなかった子どもが今でも引き継いでいるのか。

⇒前回の学校評価では15%ほどの子どもがあまり運動することはないと回答していた。今回の調査でも同様の結果となっている。

◇高学年と低学年と分けて考えてみると特徴は見られるのか。

⇒今回の資料ではお示しできない。次回に提示したい。

(児童アンケートを通して、児童の学習・生活について委員のご理解をいただいた)

(2) 前期保護者アンケート調査結果について

校長より今年度6月に実施した保護者アンケート調査結果について説明し、委員よりご意見をいただく。校長から「保護者アンケートについては、アンケート文の一部変更をしている。」「『わからないところは空白とする』でお願いした。」「結果は%表示で示している。」「なんとか『そう思わない』という評価を受けないよう進めてきたが、思うようにはいかない。」「87.5という数値を目安として考えているが、達成は難しい状況である。」という説明があった。

- ◇白子小学校はすばらしい、よくやっているなというのが第一印象である。このぐらゐの数字は当たり前であろう。良い環境のなかで教育が進められている。
- ◇白子小学校の子どもは「あいさつ・言葉遣い」が課題である。保護者の評価も高くはない。私の家の周りにも10人ぐらゐの児童がいるが、こちらからあいさつをしても、特に、男子は高学年になればなるほどあいさつができなくなる。児童アンケートを考えると、子ども達は自分に甘い評価をしているのではないか。
- ◇児童は学校内のあいさつを考えている。結果は違ってくるのだろう。保護者は、学校外でのことを考えているのだろう。
- ◇不審者対応を考えるので、保護者もあいさつをされてもすぐにあいさつはしないと教えていることもあるのだろう。
- ◇近所でも、隣の人とあいさつをしない人もいる。大人同士があいさつをしないから子どもにも意識がない。
- ◇誰にでもにこにこあいさつをすればよいという問題でもない。難しい課題である。
- ◇人口密度が高い場所ほど、あいさつはできなくなるのではないか。

(あいさつの課題は依然改善されていないが、学校は全体的によく取組んでいるという評価をいただいた。)

- ◇「市場下公園」ではボール遊びをしてはいけないことになっている。しかし、7、8人の子どもがボール遊びをしている姿を見かける。その度に注意をしているが、効果があまりない。地域の方は樹木や時にはガラス破損の被害を被っている。苦情を聞いたこともある。市でもネットを張ったり、住民ご自身で対策を立てたりしている。年齢を問わず遊んでいる姿は大変微笑ましいのだが、ルールは守る必要がある。広い遊び場が少なくなってきたので、学校の校庭をうまく活用する方法はないだろうか。「市場下公園」ではボール遊びをしてはいけないことを伝えてほしい。一方で、子ども達が十分に遊べる環境を整えてやりたい。
- ◇保護者間で通学路の危険個所を伝える連絡をとっていることを初めて知った。危険個所を自治会に教えてもらえれば、確認もできる。何らかの協力も可能だろう。
- ◇下校時の歩き方については危険な場合があるとの指摘があったが、同感である。男の子同士がじゃれあいながら、道路に出てくることもある。子どもとはそういうものだと言ってしまえばそれまでだが、事故が起こっていないのが幸いである。張ってあるチェーンを鳴らし続けることもある。
- ◇一度家に戻らなくても校庭で遊べるようにしてほしいという意見がある。学校としては管理上難しい

問題であろう。

◇今年早く暑くなった。プール期間の延長も考えられないものだろうか。

◇トイレの数を増やしてほしい、においが気になるという指摘があるが、子ども達の学校生活上支障が出てくる問題である。質問が出ること自体、問題があると考えられる。学校としてどのように対応しているのか。

⇒施設設備については、長期修繕計画に従って要望を何年も前から提出している。市長マニフェストには白子・新倉小学校のトイレ改修が示されているが、他校との関係もあり実施時期は知らされていない。

⇒保護者が子どもだった時代は、9月までプールに入っていた時代があった。年間の授業日数が200日前後となり、15年ほど前には教育課程が見直されている。現在、9月に水泳学習をしている学校は和光市内にはない。学習評価にも影響してくる。プールの維持管理の課題もある。

⇒子ども達を下校させずに学校で遊ばせることは安全管理上困難である。

⇒下校時の歩き方、通学路、危険個所等は学校の管理下での課題であるが、職員を派遣して、見守ることはできない。学校でも指導を続けるが、委員の皆様のお知恵をいただきながら、学校と家庭、地域が一体となって子どもを育てていきたい。

⇒通学路の安全については、PTAにも協力していただき危険個所を挙げてきている。民地の場合には行政もなかなか対応できない場合がある。

◇防犯ネットとの連携により、通学路の危険個所を整理してある。ネット検索もできるようになるが、今は準備段階である。

◇危険個所を教えてもらえれば、自治会等でも対応できる。道路が狭い、歩道がない等根本的に解決策がないものもある。

◇通学路の改善要望については、教育委員会からの回答をPTAから保護者に情報提供している。

(子ども達の安全確保のため学校と地域の連携の重要性を確認し、以降、継続して考えていくこととした。)

5 連絡

- | | |
|--------------------------|----------------|
| (1) 第2学期学校公開について案内 | 平成29年10月28日(土) |
| (2) 学校運営協議会委員による学校訪問日の設定 | 平成29年 9月19日(火) |
| (3) 第6回学校運営協議会開催予定日の変更 | 平成30年 3月13日(火) |

6 その他

◇本年1月、学校近隣で起こった火事について委員より説明があった。

◇「地域でやるべきこと、学校でやるべきこと、個人でやるべきこと」は何かをそれぞれが考えなければならぬだろう。三者が一体として取り組む方向性を考えていきたい。今回は幸いにもけが人も出なかったが、危機管理のマニュアルも必要である。

7 閉会のあいさつ(富澤会長)